

りんご生育情報(8月号)

令和7年8月15日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

8月12日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径95%、ヨコ径96%とほぼ平年並となっています。

表1 果実肥大調査結果 (mm)

	タテ径	ヨコ径
本年	56.8	64.3
平年値	59.7	66.4
平年比	95%	96%

※東和町の測定値。

2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が8月1日に発行した発生予報第7号では、褐斑病の発生量が「多い」、斑点落葉病は「やや多い」、果樹カメムシ類の発生量が「多い」と予報されています。また、ハダニ類、キンモンホソガの発生量は「平年並み」となっています。

表2 宮城県病害虫防除所発生予報第7号(令和7年8月1日発行)

病害虫名	発生量
褐斑病	多
斑点落葉病	やや多
果樹カメムシ類	多
ハダニ類	平年並
キンモンホソガ	平年並

りんごにおける7月下旬の巡回調査の結果、発生地点率及び被害果率は平年より高く、過去10か年で最も高かったことが報告されています。7月下旬(誘殺期間:7月中旬~7月下旬)のフェロモントラップ調査(県内地点数:4)で、チャバネアオカメムシ成虫(合計463頭)及びクサギカメムシ成虫(合計4頭)の誘殺が確認されました。

特にチャバネアオカメムシ成虫は、全地点で5月上旬から継続して誘殺が確認されており、登米地域では依然として増加傾向となっています。山林、特にスギやヒノキ林に隣接するほ場では、被害を受けやすいので注意しましょう。薬剤散布は果樹カメムシ類の活動が鈍い早朝に行うと効果的です。

3. これから発生しやすい気象災害への対策について その1:台風

台風に対する技術対策

- ・収穫可能な果実はできる限り収穫しておきましょう。その際、**農薬使用基準(農薬散布から収穫までの経過日数)**に留意しましょう。
- ・普通樹は、主幹、主枝、亜主枝に支柱をし、倒伏や枝裂けを防ぎましょう。わい性台樹や若木は、トレリス又は支柱にしっかり固定し、倒伏、樹体の折損、落果を防止しましょう。
- ・浸水等により、枝葉に付着したごみや泥は、清水をかけるなどして取り除き、病害の伝染源になるのを防ぎましょう。



- 枝葉や果実の損傷が著しい場合には、殺菌剤を散布しましょう。
- 土砂の堆積が多い場合には、幹を中心に直径2m程度取り除き、土が乾いたら耕耘しましょう。
- 倒木があった場合には根が乾かないうちに速やかに起こし、支柱で支えます。枝が裂けた場合には裂開部を縄やかすがいなどで接着します。枝葉の損傷が著しい場合には、切り落とし、塗布剤を塗りましょう。

4. これから発生しやすい気象災害への対策について その2：高温

🍷高温に対する技術対策🍷

- 草生園（下草を生やし管理する園地）では、草の刈り取り回数を増やし（草丈15～20cmを目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎます。また、刈り取った草は樹冠下へ敷草しましょう。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにするとともに、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。また、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果量としましょう。
- ハダニ類が多発しやすいため、園地の観察を強化し、防除を徹底しましょう。
- 土壌条件によって異なりますが、干天日数を目安とすると、7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20t/10a）程度を目安にかん水するようにしましょう。
- 台木が M.26 や M.9（マルバカイドウを補助根としていない）で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合がありますので、かん水設備がない場合でもスピードスプレーヤー等で水を運搬してかん水しましょう。
- 成熟期の果実の着色不良に対して、反射シートの活用や適切な栽培管理による樹幹内環境の改善をはかりましょう。ただし、反射シートの活用は、日焼け果の発生を助長する場合がありますので注意してください。

5. 今後の管理について～「つがる」等早生品種の着色管理～

「つがる」など9月に収穫する品種の葉摘みの開始時期は、収穫予定の10～15日前です。葉摘みは収穫までに2回に分けて実施し、1回目は果実に直接ついた葉を中心に軽く2～3枚程度除去し、2回目は玉回しと併せて果そう葉の30～40%を上限として除去します。

早生品種の着色管理は残暑の時期に当たります。最低気温が20℃を超えるような日が続く場合は、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進みません。翌年の花芽の充実に影響を及ぼすこともあるので、過度な葉摘みはしないように注意してください。

🍷 農薬危害防止運動実施中 🍷（6月1日～8月31日）

◆農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう！